

ニュースレター

山りおもての森から

林野庁 九州森林管理局
西表森林生態系保全センター
平成27年1月発行 No.43号



コバノセンナ

白浜小学校の「山の体験学習」を支援

11月11日(火)に、白浜小学校の三大大行事である「山の体験学習」が実施され、当センターと租納森林事務所から参加し森林環境教育の一環として支援しました。

当日の参加者は、生徒17名、教職員7名、保護者等20名、合わせて総勢44名で、9時00分に白浜港を出港し、途中、島袋講師からイチバン川、ヌバン川や旧耕作地での体験談、また、植物の説明を受けながら、仲良川船着場の上陸し、ナーラの滝を目指しました。

滝までの道中オキナワウラジロガシのドングリなどを拾いながら11時頃に到着しました。その後、山菜取り班と魚釣り班に分かれ収穫を楽しみ、12時の昼食時にはそれぞれが収穫した山菜やエビを天ぷらにしておいしく頂きました。

13時頃から下山を開始し、船着場までにキノボリトカゲ等の動物を見つけたりしながら下山し、再び船に乗って14時30分頃に無事白浜港へ帰港しました。



JICA研修生を受け入れ

平成26年度の国際協力機構(JICA)による集団研修の一つである「住民参加による多様な森林保全」コースの研修生を11月4、5日に受け入れました。研修生は13カ国から14名が参加しており、4日には沖縄県や西表島の地域の森林概況などの講義を受け、5日にはサキシマスオウノキ等の保全の現場や森林の中を歩いて視察しました。

研修生の多くは熱帯地域の国から参加していることから、西表島の現場等の視察では、気候や植生などの共通性などを感じながら、様々な質問等をしていました。今回の西表島での経験が今後の彼らの活動に寄与できることが期待されます。



コバノセンナ (マメ科)

アメリカ原産のマメ科の植物です。10月から12月の時期に黄色い花を咲かせます。花に比べ羽状複葉の小葉が小さいのが特徴で、高さ2mくらいになる低木です。九州や沖縄では公園樹として植栽されていて、ギンネムやネムノキと同様に、夕刻になると葉を閉じます。葉が他のセンナより小さいので「小葉のセンナ」コバノセンナとのことです。

仲間川・浦内川マングローブ林の生育状況調査を実施



11月17日(月)、18日(火)に浦内川流域のマングローブ林の生育状況調査を実施しました。

調査は、二カ所の調査設定箇所において、調査木の生育状況調査、光環境の調査、稚樹の発生状況調査を行いました。調査結果については、昨年の調査に比較して特に変化はありませんでした。

なお、今年度よりこれまでの調査を検証して、コードラートや調査項目等の見直しを行い実施しています。

12月18日(木)に仲間川流域のマングローブ林の生育状況調査を実施しました。

調査は、調査木の生育状況調査、光環境の調査、稚樹の発生状況調査を行いました。調査結果については、昨年の調査に比較して生育状況に変化はありませんでしたが、稚樹の発生が少ない状況が続いており生育環境の変化に注視していく必要があります。

平成26年度国有林野事業業務研究発表会で発表

12月4日(木)に、平成26年度国有林野事業業務研究発表会が農林水産省林野庁で開催され、三部門「森林技術部門」「森林保全部門」「森林ふれあい部門」において24課題の発表がありました。

森林保全部門で、当センターの渡邊自然再生指導官と沖縄森林管理署の岩下森林官が、「低コストによる外来種(ギンネム)対策と海岸林再生への取組」と題し、侵略的外来種であるギンネムの駆除・抑制を行いながら在来種(テリハボク・フクギ等)を中心とした林分への転換を図るために、防草シートと在来種の播種などの手法を用いて、低コストによる海岸林の自然再生への取り組みについて発表を行いました。

その結果、本課題は林野庁長官賞優秀賞を受賞しました。

今後も、当センターが取り組んでいるモニタリング調査など各業務について各種発表会・研究会等で発表するなどPRに努めたいと考えています。

マングローブ開花結実習性調査を実施(指標木の選定と設置)

西表島におけるマングローブの開花結実習性等を把握するため、指標木の選定を10月23日(木)に実施しました。調査指標木は、主たる構成種である「オヒルギ、ヤエヤマヒルギ、メヒルギ、マヤブシキ、ヒルギダマシ、ヒルギモドキ(ニツパヤシを除く)」の6種と、副次的な構成種である「サキシマスオウノキ、ミズガンピ、シマシラキ、ミモチシダ」の4種を選定しました。

今後継続して観察を行い取りまとめることとしています。



胎生種子が出始めたオヒルギ

船浦湾ビーチクリーンに参加

西表島内のビーチクリーン活動を実施している西表エコツーリズム協会のエコプロジェクト活動に継続的に参加しており、船浦湾では今年3回目となるビーチクリーンが10月19日（日）に実施されました。

今回は、カヌー組合が主催する形で行われ、船浦湾のマングローブ林内や周辺にある漂着ゴミだけでなく、船浦湾に流れ込んでいるヒナイ川、西田川沿いの漂着ゴミも回収されました。

参加者は34名で、回収されたゴミは発泡スチロールが一番多く48袋、その他プラスチックが27袋、ブイ24袋、ペットボトル18袋などトン袋と合わせて139.7袋となりました。

一時は、海中道路からも発泡スチロールやブイなどの漂着ゴミが見える状態だったものが、観光客にも喜ばれるきれいな景色を取り戻しました。



研究機関による台風被害地調査

仲間川マングローブ林の台風被害地のフィールドを利用して研究を行っている（独）防災科学技術研究所の現地調査に10月30日から31日の二日間、琉球大学熱帯生物圏研究センターと共に、当センターからも参加しサポートしました。

この研究は、被害前と被害後の空中写真から三次元形状を復元し、地表面の変化からさらに横方向（マングローブ林の拡大）や縦方向（バイオマスの増大）の変化を検出する研究で、今回の現地調査は復元したモデルと現地との差分検出精度の手法を開発するために行われた調査です。

西表島に生育する外来種 ①

ギンネム (マメ科)



1910年以降に、沖縄県へ緑化用・飼料用として人為移入されました。アルカリ性土壌を好み、海岸や道路沿い、空き地等に見られ、分布域を拡げています。

ほぼ1年中開花しており、次々と結実しては大量の種子を生産し、風力などにより重力散布されます。

ミモシンというアレロパシー物質を含んでおり、他の植生への遷移を阻害します。家畜が摂取し過ぎると、脱毛、繁殖障害、生長阻害といった弊害が出ます。

世界の侵略的外来種ファースト100の1種で、外来生物法によって要注意外来生物となっています。

外来種とは？

明治以降に日本に移入導入された生物を外来種といい、分布域や生息・生育区域を拡大して生態系に重大な影響を与えることがあります。

アレロパシーとは？

ある植物が他の植物の生長を抑える物質を放出したり、あるいは動物や微生物を防いだり、あるいは引き寄せたりする効果の総称で、邦訳で「他感作用」と言います。

西表島の似たものの植物

ノボタン

V s .

ハシカンボク



区 分	木本類
分 布	鹿児島（奄美大島以南） 沖縄、中国南部、台湾等
葉 の 形	長楕円形、 長卵形
葉 の 縁	全縁
葉 の 先	鋭尖形

区 分	木本類
分 布	鹿児島（種子島・屋久島以南） 沖縄
葉 の 形	長楕円形
葉 の 縁	鋸歯
葉 の 先	鋭形

葉の種類	単葉
葉の付方	対生
葉の基部	円形、 漸尖形
実の種類	液果
花・萼色	赤紫色まれに白色

葉の種類	単葉
葉の付方	対生
葉の基部	円形、 ハート形
実の種類	蒴果
花・萼色	淡赤色

説 明	<p>乾いた草地、林縁などに生育し、高さ1-1.5mの常緑の低木です。枝は四角柱状で、やや柔らかい毛が付いています。葉は対生し卵形や長楕円形です。葉は主脈と側脈が目立ち、長さ6-12cm、幅2-6cmです。葉の両面にやや柔らかい毛があり、葉の縁は全縁です。花は、赤紫色まれに白色で、径6cm程度です。</p>
-----	--

説 明	<p>乾いた草地や林縁などに生育し、高さ30-100cmで常緑の低木です。枝は丸く短い毛があります。葉は薄い革質のような葉で長さ4-10cm、幅2-5cmです。葉先は鋭形、葉の裏側は白味をおびています。淡赤色の花が多数集まって咲き、大きさは径1.5cmぐらいです。また、短い毛が花の柄の部分にあります。花弁は4個あり、8-9mmです。</p>
-----	---

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター

〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108

URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>

